



レストハウス営業は11月4日(月・振替休日)まで

旭山記念公園レストハウスは、11月4日(月・振替休日)までのオープンです。
11月5日から2020年4月下旬までお休みとなります、ご了承ください。
「森のアリス」メニュー、今月は「チャーハン」単品 400円セット 500円(税込み)。
セットには目玉焼きとスープ付き、紅葉散策のひと休みにぴったり。
レストハウスは休憩だけでもご利用いただけます、ぜひお立ち寄りください！



旭山は自然の入口

旭山記念公園及び札幌市旭山都市環境林は「自然の入口」。

物理的にも、札幌都心部から最も近い森林ではありますが、自然観察の基本が学べる場所でもあります。

旭山には珍しい植物はありません。

北海道の低標高の山林であれば普通に見られる植物ばかりです。

野鳥も、クマゲラはいますが、いわゆる「普通種」ばかり。

これらは、旭山がかつて牧場だった(その後ハゲ山に植樹された)、「札幌焼」という陶器を作る窯の燃料として樹木を利用する薪炭林だったりと、明治以降に人の手が入り自然が回復している途中の場所であり、自然度のより高い場所に生える植物がなくなったためと考えられます。

しかし、裏を返せば、基本となる動植物種が揃っているということであり、旭山で自然観察していれば、道内の森林の生き物が見えてきます。



出かけた先の森、旭山でよく出会うキビタキがここにもいる、ルイヨウショウマがここでも咲いている、ハリギリの立派な木がここにもある...などなど、身近なおなじみの生き物を通して、旭山と出かけた場所との自然の共通点を見つけたり、アキノキリンソウは旭山では少ないけどここでは多いといった、同じ種類の動植物でも違いが見えたりします。

また、逆に、旭山ではめったに見ないけれどここにはたくさんいる(ある)という生き物の存在に気づくなどなど、自然への自分の引き出しが多くなっていきます。

地域特性や水辺環境の違いを除き、旭山で見られない動植物は、出現頻度の低い種、稀少種、珍しい種であるといえます。

そういう場所はもちろん旭山だけに限らず、お近くにもきっとあるでしょう。

そうした、「大自然」ではない身近な自然は「自然の入口」であり、そのような場所に通うことは「自然観察の基本」でもあるのです。

旭山では、これからも「自然の入口」にこだわってゆきます。



今年は旭山で見られなかった花、少なかった花のまとめ

植物も「動いて」います。今年感じた、花の多寡をまとめてみました。()内は花期。

- * サラシナショウマ (9月): 毎年園内と都市環境林で数カ所咲きますが今年は見られませんでした。
- * ヤマハハコ (9月): ここ数年減少傾向で、今年も園内では1、2カ所で咲いているだけでした。
- * アキノノゲシ (8月): 一昨年展望台西側で咲きましたが、昨年、今年と見られませんでした。
- * ハナタデ (8月): 藻岩山登山道入口付近に多かったですが、今年ほとんど見られませんでした。
- * ヤブジラミ (7月): 明るい林床にかつてよく見られましたが、今年数は数株あるだけでした。
- * ヨツバヒヨドリ (7月): 展望台西側斜面では今年も多く咲きましたが、森の家の前のものは3年ほど前から少なくなり、今は数株しか残っていません。笹に負けたものと思われます。
- * オオダイコンソウ (6月): 近縁種ダイコンソウは多いですが、こちらは少なくなりました。

旭山野鳥メモ ⑧ヒガラ

④ヒガラ Coal Tit *Periparus ater* スズメ目シジュウカラ科

北海道をはじめ日本全国で留鳥。

道内では針葉樹があれば山でも市街地でもどこにでもいる。

シジュウカラに似た色合いだが、背中上部はオリーブ色にはならず、胸から腹のネクタイの代わりに、あごの下に黒い「前かけ」がある。

「ちょんまげ」が特徴で他のカラ類と間違えることはないが、姿勢や角度により「ちょんまげ」が見えないことがあるので要注意。幼鳥にもある。

野鳥は春から夏にかけての繁殖期以外に囀りはしないが、ヒガラはなぜか秋にも囀りをよく聞く。

ヒガラは、秋に1、2日だけ10羽以上の群れで行動し、冬から春先にも群れを見ることがあるが、これは「集団お見合い」、近親交配を防ぎ、遺伝子情報を保つのに役立っているのかもしれない。

ヒガラは針葉樹のてっぺんで囀りするが、高い木の上に小さな体、存在に気づいても観察は大変。

しかし、囀りの声は大きくよく響く。「チビチーチビチー」というリズムで歌う声が、「うれしいうれしい」に聞こえるか、「きびしいきびしい」かで、その人のその時の気持ちが分かる・・・かもしれない。

ヒガラは日本で3番目か4番目に小さい鳥だが、意外と存在感がある鳥のような気がする。



10月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧ください。森の家までおたずねください。

★ヒタキ4種揃い踏み＝9月20日、森の家近くのタラノキの実を食べにキビタキとサメビタキが、周りにコサメビタキとエゾビタキがいて、同じ日に同じ場所で4種のヒタキを同時に観察することができました。

★ハヤブサ＝9月9日、幼鳥1羽が旭山上空に現れました(右写真)。

★クマゲラ＝8月後半から園内での観察情報が増えてきました。

★ヤマゲラ＝「ピョップピョップ」という声が秋になり聞かれ始めています。

★シマエナガ＝森の家の周りに1日1回から数回来るようになってきました。



旭山ニ生き物図鑑 2019年10月 9月から10月の生き物たち



2019年9月20日 ヒタキ4種揃い踏み～ 左から キビタキ♀ キビタキ♀ サメビタキ コサメビタキ エゾビタキ



ニホンカナヘビ ミカドフキバツタ ゴマダラカミキリ ヒメアカタテハ アキノキリンソウ

編集後記

エゾゴマナは8月になると林縁に咲くキク科の花。今年はお盆を過ぎてほとんど花を見ず、今年は少ない年かと思っていました。ところが9月に入って多く咲き、結果、平年並みに見られました。花は天候により花期がずれますが、1種類だけ花期が遅れるのはレアケース。自然は不思議です。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第73号 2019(令和元)年10月5日発行

発行：(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所：〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先：電話 011-200-0311 (土・日・祝日10時～16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiyaai/>